

PMR 資格試験への挑戦 2

実践力が問われる試験

佐野 紀興

■ 受験動機

私が日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の資格試験を受験する契機となったのは、知人からの勧めによるものです。IT 企業で技術者からチームマネジメント、会計、経営企画の業務を経験する過程において、情報処理推進機構(IPA)の技術系試験やプロジェクトマネージャ、IT ストラテジストなどの試験、業務的な資格を受験してきましたが、プロジェクトマネジメントに関する資格試験といえば費用が掛かる PMP® という認識で、チャレンジしていませんでした。

昨年、新しい環境でそれまでの経験を活かして仕事をする機会に恵まれ、その際に「プログラム&プロジェクトマネジメント(P2M)」について学習してみないかと誘われたことから、P2M に関する情報に触れることができました。最初はプログラムマネジメントという言葉から、情報システムのプログラム開発に関するマネジメントって品質管理のこと？といった先入観を持ってガイドブックを学んでいきましたが、価値を創造するプロセスとしてのプログラムマネジメントという考え方だということを理解しました。IT のプロジェクトをマネジメントするだけでなく、企業が価値を創出するためにどのような戦略をもって実現していくかを経営目線で経営に働きかけていく、ビジネスアナリストの研修を受講したことがあります。そちらの内容とも通じる部分があると感じ、受験の意欲がわきました。

■ 受験の感想

受験対策の前に P2M ガイドブックを読破し学習することから始めましたが、これまでの仕事上でのプロジェクトやプライベートを含めた様々な活動で得られた経験と照らし合わせることで、自分に置き換えて理解していくことができたと感じています。受験に向けては練習問題を繰り返し解くことで定着を図っていきましたが、PMS 合格後に PMAJ の「PMS プログラム試験対策講座」が有用であると知りましたので、そちらの方が近道かもしれません。

PMS 合格後、すぐに PMR 試験に申し込みをしました。CBT 方式の論述問題 4 問 + 面談の一次試験、モジュール試験といわれるグループワーク + 面談の二次試験で構成されていますが、私は当初グループワーク日程に行事予定があり二次試験は次年度以降受験する予定でした。結果的には二次試験も今回受験することができ合格となりましたが、一次試験合格(PMR 補)の有効期間が 4 年間あるため柔軟性が高いと思います。

一次試験の論述試験は私にとっては時間が厳しかったですね。なんとか時間内に書き上げましたが、途中で論点を変更して書き直した問題があり、ギリギリでした。この論述試験の内容に関して面談の際にコメントをいただく場面もあり、今後の活動に向けた気づきを得ることもできました。

二次試験のモジュール試験は多少の慣れが必要だと思います。私は「PMR 養成講座」を受講することであらかじめ雰囲気を感じることができ、心の準備ができていた状態で試験に臨むことができました。途中で思ったようなパフォーマンスが出せない場面もありましたが、参加者の方と議論をしながら進めていくことで、改めて価値創造の視点に立ち返ることができるなど、目線を上げることができ、最終面談でいただいたコメントも含めて、良い経験となりました。参加者の方とは試験後に懇親する場を設けることができ、今後も情報交換をしていきたいと思っています。

全体をとおした感想としては、座学だけではなくいかに実践を経験し学びを得て自分の糧にしてきたかが問われるということです。その意味では、これまでのプロジェクト経験で得られたことを改めて整理して次のプロジェクトに活かすことを繰り返して成長をしていく姿勢が大切だと感じました。

■ PMR としての展望

企業においてプロジェクトマネジメント力の向上は大きな課題であり、特に経験の浅いメンバーがプロジェクトリーダーを担うことで経験を積み、より大きなプロジェクトの中心で活躍できるよう育成することが求められています。特に、社員の顔が見える規模の企業においては、一つひとつのプロジェクトの成否が事業に直結するため、自ら実際のプログラム/プロジェクトをマネジメントするだけでなく、プログラムマネジメントの目線をもってプロジェクトを推進できるメンバーを増やすことが、経営への貢献に繋がるものと思います。

また、私自身、今回の経験においてはじめて P2M に触れたように、この考え方を知らない方がたくさんいらっしゃると思いますので、PMAJ の活動にもかかわることで、裾野を広げる一助となればと考えています。



【プロフィール】 佐野 紀興 (さの のりおき)

エンカレッジ・テクノロジー株式会社 経営管理部 人事労務グループ 労務管理チームリーダー
金融関連のシステム会社において技術部門を中心に 35 年以上在籍。

技術担当/マネジメントの立場で様々な情報システムの基盤導入/保守大規模プロジェクトや 2 度の銀行統合対応に従事。

その後、技術部門のマネジメントに加えて経営管理部門も経験。

新卒 2 年目で経験した銀行営業店での研修が利用者目線で考えるスタートラインになった。

現職は IT 運用を支えるサービスを提供する企業の人事部門において、労務業務とともに PM や次世代リーダー育成の役割も担う。